

## イベントを通じて学内で国際交流活動を広げる国際交流センター

大学本部棟3階にある国際交流センターでは、在学生の留学に関する相談や情報提供をはじめ、学内の日本人学生と留学生の交流促進を目的に、さまざまな活動を行っています。

留学に関しては世界9ヶ国22校の海外協定校への留学生送り出し業務や受け入れ業務を行います。現在、大学からは39人の学生が1年間の長期留学へ、短期間の語学研修には68人が留学しています。また今学期は27人の留学生を大学に受け入れています。こうした留学生一人ひとりに対し、大学生活をサポートする学生ボランティアのランゲージパートナーも募集。「年々応募も増え、今回は75人ほどの応募がありました。国際交流に関心を持つ学生が増えて嬉しく思います」とセンター長の中森千佳子教授は話します。



中森千佳子教授

また年間を通じてさまざまなイベントを行いながら、学生と留学生の交流を図っています。その中心となって活躍するのが学生サークル「KING」です。「留学経験者が中心ですが、中には留学未経験の学生も参加し、積極的に活動を行っています」と話すセンタースタッフの加藤祐子さん。「現在、100人近くの学生が登録。いろいろなイベントを計画し、毎回大勢の参加者が集まり盛り上がっています」。



加藤祐子さん

中でも春に行われるお花見やボウリング大会は、留学生にとっては初めて日本人学生と交流を図る機会。花見に参加した韓国の留学生、イ・ジへさんは「きれいな桜の下でお弁当を広げながら、みんなと話ができて楽しかった」と笑顔で話します。またボウリング大会に参加したタイの留学生、ヨータカー・チャイバナットさんも「最初はあまり話せなかったけれど、ボウリングで盛り上がるうちにみんなと仲良くなれた」と参加してよかったと話します。

今年の春には留学生会館も開所。新しい会館には談話室があり、留学生はここでも交流の輪を広げています。町内会にも入り、運動会や清掃活動に参加。「お祭りでは山車を見て、とても感動しました」と話すジへさん。こうした地域住民との交流も積極的に展開しています。

定期的に行われるイベント「クールジャパン・

プロジェクト（CJP）」も学内で好評です。これは日本の文化をもっと留学生に知ってほしいという思いで行われる日本文化紹介の一環で、KINGメンバーのサポートのもとに書道パフォーマンスや茶道、合気道、琴などにチャレンジ。留学生たちが「かっこいい日本」や「おもしろい日本」をテーマに写真を撮るフォトコンテストも開催されます。

年2回、自分の国の料理を持ち寄って楽しむ「ポットラックパーティー」も評判を呼んでいます。「センターの机にいろいろな国の料理がずらりと並び、とても賑やかです」と話す加藤さん。「この他にも、毎週、ランチタイム・ギャザリングなども行われます。センターの行事は誰でも参加自由なので、学生はもちろん教職員の皆さんも、ぜひ飛び入りで自由に参加してもらいたいと思います」。

こうした行事を通して、「たくさんの方と交流ができた」と話すジへさんとヨータカーさん。ジへさんは「日本の友達も外国人の友達も増えて嬉しい。先生方ともいろいろな話ができるので、授業以外にも学ぶことが多いです」と、またヨータカーさんは「スタッフの方々は本当に私たちを支えてくれています。みんな家族のよう



季節ごとにイベントを開催。春のお花見には留学生日本人学生合わせて約50名が参加。



左から留学生のPauline Lauzel(ポリン・ロゼル)さん/フランス、季 智慧(イ・ジへ)さん/韓国、Yothaka Chaipanus(ヨータカー・チャイバナット)さん/タイ

に温かい」と話し、2人ともセンターの活動を通して多くの人々との交流があり、楽しく心穏やかに留学生活が過ごせているといいます。さらに後期から留学生としてフランスから来たロゼル・ポリンさんも「まだ始まったばかりですが、日本人や他の国の友達が少しずつ増えてきて嬉しい」と話します。

「スタッフはこうしたイベントや交流活動はもちろん、海外で学んでいる学生たちに対してきめ細やかなサポートを行うので協定校からの評価も非常に高いです」と中森教授もセンターのスタッフを大変信頼しています。「細やかなサポートがあるからこそ、留学生も安心して学び、過ごすことができ、大学の国際交流もさらに活発化していけるのだと思います」。

「学内での国際交流をきっかけに、広く世界に目を向ける」そんな場所をめざし、これからもさらに国際交流のための活動を広げていきます。



クールジャパン・プロジェクト(CJP)にて書道パフォーマンスの様子



ハロウィンパーティーにて

国際交流センターでは、留学・国際交流に関するサポートを行っています。

## 異文化体験で国際理解を深め 平和の大切さも学んだアメリカ語学研修旅行



7月26日から8月5日まで「第42回アメリカ語学研修旅行」を開催。今年は中学3年生10人、高校生16人の計26人が参加し、ハワイで語学研修を行いました。

この研修は英語に囲まれた環境の中でリスニング、スピーキング、ライティング能力の向上を図るために、英語を学ぶだけでなく、現地の人々との交流により国際理解を深め、さらに集団生活を通して協力することや問題解決能力を身につけられるように企画し、毎年行われています。今回も研修に先立ち、6回の事前学習を実施。ハワイの歴史、文化、社会についてワークショップやインターネットを利用した「アリゾナメモリアル」とのビデオカンファレンスを通して学び、基礎知識を習得してからハワイへ旅立ちました。

ハワイでは生徒3人に対して1人の現地大学生がリーダーとしてサポート。「コンドミニアムで一緒に過ごしたり、食事や買い物を楽しんだりしながら生きた英語を学んだようです」と今回お話を伺った柳瀬公代先生が話すように、生徒たちは共同生活の中で、時折試行錯誤しな

がらもリーダーと英語で楽しくコミュニケーション。「英語が通じると楽しい」「英語力が向上したと思う」とそれぞれ英語に対する自信や英語力の向上も実感しました。

フィールドワークではハワイの歴史、文化、自然を学ぶため様々な場所を訪問しました。特に今回の訪問先の中で印象的だったのは「アリゾナメモリアル」です。戦艦アリゾナの上に造られた慰霊塔で、そこから海をのぞくと巨大な戦艦が沈んでいるのが見えます。ここで生徒たちは戦争体験者から体験談を聞き、日本とアメリカの戦争の歴史を学習。現地の学生と一緒に慰霊塔に献花を行いました。今もなお、戦艦の重油が海に浮き上がる様子を目の当たりにした生徒たちは「真珠湾攻撃について今回初めて知り、驚いた」「日本も加害者であることを実感し、世界平和の大切さを知ることができた」「戦争に対して、アメリカ側の主張も知ることができた」などと大変有意義な訪問であったことを実感し、あらためて戦争の悲惨さと平和の大切さを感じるすることができました。

またこの他にも、ハワイネイチャーセンター

での自然体験をはじめ、日系人の歩みや歴史を紹介する日本文化センターを訪問しました。そしてビショップミュージアムではレイ作り体験、フラダンスなど多彩なプログラムが行われ、生徒たちは楽しみながら異文化に触れ、それぞれに国際理解を深めました。

研修で生徒たちは最大の課題である「ソロプレゼンテーション」に挑戦。「ハワイで見つけた私の一品」をテーマに300ワードの原稿を書き上げ、みんなの前で発表しました。生徒たちは英語で伝えることの難しさ、プレゼンテーションの大変さを感じながらも「原稿を書くのも発表も大変だったけど、やりがいがあった」「日本では体験できることではないのでよかった」と大きな達成感を得ることができました。「通常の授業とはまた違った形の研修で、生徒たちは探求する力、考える力をより一層磨くことができたと思います」と柳瀬先生も生徒たちの確かな成長を実感しています。

研修後に行ったアンケートではさまざまな声が集められました。リーダーとの共同生活では「伝えたいことがうまく伝わらない時に、英語の勉強意欲も高まりました」「現地の生活について直接聞くことができた」などの声も聞かれました。さらに後輩へのメッセージには「一生の思い出になるほど楽しい」「自分に自信がつくからぜひ行ってほしい」などの言葉も。自分自身の成長とともに国際理解と平和学習を通して世界の人々と共に生きることの大切さも学んだ有益な研修であったことが伺えました。



現地大学生とピクニック



ハワイネイチャーセンターでの環境学習



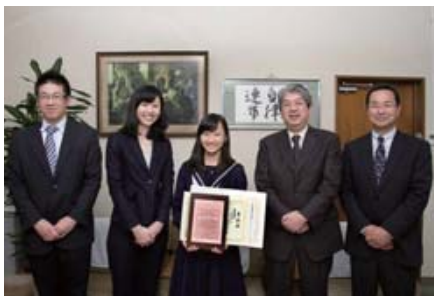
アリゾナメモリアルでの献花



レイ作り体験

## 高円宮杯全日本中学校弁論大会県大会で3年生の犬飼さんが最優秀賞に!

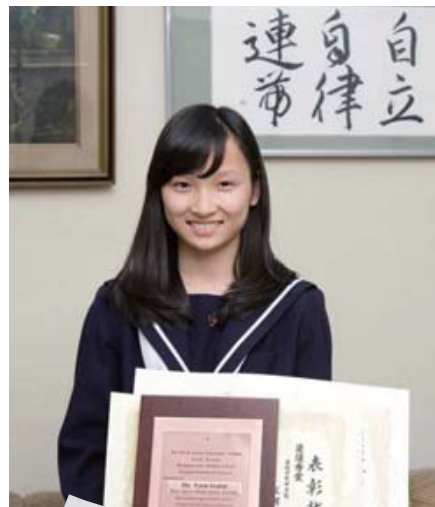
10月6日に中京大学名古屋キャンパスで「高円宮杯第64回全日本中学校弁論大会県大会」が行われました。中学では毎年この県大会に出場し、過去にも優秀賞や最優秀賞を受賞。今年度も審査の結果、3年生の犬飼友菜さんが最優秀賞に選ばれ、11月30日に東京で行われる決



勝予選大会に出場することが決まりました。

犬飼さんは「SHINE」というテーマで、輝くこととは何か、自分自身の経験から疑問に思ったことや感じたこと、また自分自身が輝くために必要なことをスピーチで披露しました。今大会に向けて春休みから原稿作りを始め、夏休みから本格的な暗唱練習へ。約半年間にわたりコツコツと練習に励んできました。そのたゆまぬ努力が見事に実り、最優秀賞をいただくことができました。

犬飼さんは11月に行われる決勝予選大会に向け、「大会ではもっと輝けるように」と気持ちも新たに、表現力などさらに磨きをかけて日々練習に励みます。大会でのさらなる活躍を期待します。



宿舎にて記念撮影

## 中学グリークラブ 全日本合唱コンクールで銅賞に

10月28日、鹿児島県で行われた「第65回全日本合唱コンクール全国大会」に中学校グリークラブが中学同声の部中部支部代表として出場しました。



桜島観光

この大会には全国の各支部から選ばれた21校が参加し、それぞれに日頃の練習成果を発表しました。今回は2回目の全国大会ということもあり、昨年よりリラックスしてのびのびとした歌声を披露。「今までで一番いい演

奏ができた」とみんなも大満足の成果を出し切り、見事銅賞を受賞しました。宿舎では打ち上げパーティーを開催、どの生徒の顔も達成感と喜びで満ちあふれていました。

翌日は頑張ったご褒美にと桜島観光へ。雄大な景色に「きれい!」「すごい!」と生徒たちも感動。大会参加とともに素敵な思い出となりました。

「他の学校のすばらしい演奏を聞いて大きな刺激になりました」と生徒たちもさらなる向上をめざし、これから続くメサイヤ演奏会や定期演奏会に向けてますます頑張っていきます。

## 新聞を活用した授業で 世界問題と国際理解に関心を

中学では2011年度より2学期間、「NIE(教育に新聞を)」の実践指定校になっており、日々の授業や学習の中で新聞を積極的に活用しています。

去る9月27日に行われた中学1年生の社会の授業では、新聞記事をもとにしたレポートの発表が行われました。生徒たちは1学期に世界

地理を学習。夏休み期間中に新聞を読んで、関心を持ったアジアの記事をひとつ選んで感想や意見、さらに調べたことなどを各自レポートにまとめて発表しました。

竹島や尖閣諸島を巡る領土問題をはじめ、宗教対立や民族紛争、経済発展と民主主義の進展など、取り上げられた問題はさまざま。中には

インドの日系企業で起きた暴動を取り上げ、そこからカースト制度について考え「政府と国民が一丸となって古い制度を乗り越え、国民が豊かになるように」と意見を述べた生徒も。今日のアジア諸国が抱えるさまざまな問題を中学生の視点からとらえ、理解し、自分の意見を持つことができるようになりました。

生徒たちにとっては今この瞬間に世界で起きていることを知り、その中でどのように生きていくのかを考えるための大切な学びの場となっています。



## 作家・中川李枝子先生の講演や 卒園生も参加のバザーを開催

幼稚園では今年40周年を迎えるにあたり、さまざまな記念行事を行いました。まずは6月5日に児童文学作家の中川李枝子先生をお迎えして父母の会講演会を実施。「こどもと共に」と題し、幼児期の子育ては子どもにとっても母親にとってもかけがえのない大切な時期であることなどをお話されました。「中川先生がいわゆるいい幼稚園の基準は制服、送迎バス、給食がないこと。ここはそれに当てはまるという

## 40周年を迎え、記念行事を開催 変わらぬ保育環境を未来へ継承

ことで、今回の講演を快諾してくださいました」と馬淵宣子園長は話します。「父母の方々もあらためて幼児教育の大切さを知った、子育てを振り返るいいきっかけとなった、この幼稚園の良さを再認識できたなどの意見をいただき、皆さんの心に残る講演会となりました」。

11月3日には「父母の会40周年記念バザー」を開催。今回は父母の会ブースに加え、卒園生のブースを設置、小学生から高校生までの卒園生たちがゲームコーナーや手作り品の店

などを出店し、おいに賑わいました。中には夏休みから準備を始めた卒園生たちも。「懐かしい友達同士で集まって、賑やかに準備をするのもまた楽しかったようです」と話す馬淵園長。園児たちもお兄さん、お姉さんたちと一緒に楽しく買い物やゲームを楽しみました。また卒園児父母のブースでは空き瓶などの廃材を利用した宝箱など手作りの雑貨を販売。園児たちによるお店屋さんやダンスやエア演奏などのステージも行われ、大変賑やかな1日となりました。



みんなでお店を出店



園児たちによるダンスステージ



お店に並ぶ手づくりの雑貨

## 園児たちがハンドベルも演奏 心に残る40周年記念礼拝

11月14日には、神様に40年の歩みを感謝する、「金城学院幼稚園40周年記念礼拝」が行われました。園児たちも「幼稚園の40才のお誕生日をお祝いする日」とこの日を心待ちに。当日は父母も参加し、讃美歌「ひかりひかり」、主の祈りの後に幼稚園の聖話講師である渡部信子先生から聖書のお話を聞きました。

また礼拝の後には、子どもたちのハンドベルミニコンサートを開催。「ひかりひかり」「にじのむこうに」を演奏しました。どの園児たちも一生懸命に演奏、会場中に優しいハンドベルの音色が響き渡りました。馬淵園長は「こうした式典で子どもたちがハンドベルを演奏するのは初めてです。緊張しながらも、先生の指揮をしっかりと見て演奏しました。友だちや、お父さん

お母さんに聞いて頂くことができ、喜びと感謝で一杯です」。園児たちがすばらしい演奏を無事披露でき、「皆さんから大きな拍手をいただき、みなそれぞれに達成感を味わい、大変嬉しそうでした」と述べました。

最後は金城学院幼稚園名誉園長の西川道子先生から父母へ「幼稚園の大事にするもの」というテーマでお話があり、また学院長柏木哲夫先生、三代目の園長である内藤徹先生、四代目の園長である加納真知子先生からもお祝いの言葉をいただきました。園児たちにとっても父母にとっても、また保育者たちにとっても大変心に残る記念礼拝となりました。



40周年記念礼拝で讃美歌を歌う園児たち



子どもたちのハンドベルミニコンサート



名誉園長・西川道子先生

## 1人ひとりを大切にする保育を 未来へと受け継ぐ

40周年を迎え、馬淵園長は「初代園長がおっしゃった、園児一人ひとりを大切にする保育は今後もずっと継承していきたい。そしてどんなに時代や環境が変わっても、子どもたちの豊かな個性を損なうことなく伸ばしていきたい」と話します。幼稚園はこれからも子どもたちの創造性や自立、自律を育みながら、「愛され、育ちあう」をモットーに保護者の悩みや喜びにも寄り添い、互いに成長しあえる豊かな保育環境をめざしていきます。